

教育者への道

錚々たる顔ぶれの協力者たち



林 頼三郎

(1878—1958)

東京法学院（現・中央大学）卒。検事総長、大審院長、司法大臣、中央大学学長・総長等を歴任。横浜専門学校初代校長や財団監事として学校運営に協力した。



樋貝 詮三

(1890—1953)

京都帝国大学卒。恩給局長、保険院長官等を歴任。戦後初の衆議院議長となり、吉田茂内閣では国務大臣。物心両面で米田を支え、兄のような存在であった。



太田 哲三

(1889—1970)

東京高等商業学校卒。中央大学や東京商科大学（現・一橋大学）の教授を歴任。東京商科大学の優れた教員を米田に紹介、自らも講師として指導にあたった。

まだ若い米田の学校経営には、多くの協力者がいました。なかでも中央大学時代の恩師・林頼三郎や樋貝詮三、太田哲三はそれぞれ助言や物心両面、人材紹介などで米田を支えました。米田が父のように慕っていた林は、横浜専門学校の初代校長をつとめました。

また、横浜の財界人たちも資金を援助しています。

創立時の教員は、法律系が母校（中央大学）の教員と裁判官、商学系は東京商科大学（現 一橋大学）の教員が大半をつとめていました。優れた教員を集めることにこだわった米田の希望がかない、いずれも錚々たる顔ぶれでした。